

静岡県三島市「三島風穴」緊急調査報告

～なぜ市は火山・岩石・火山洞窟・生物・鉱物の学術調査をせずに埋め立てを急ぐのか？～

川村 一之 (KAWAMURA, Kazuyuki) NPO 法人火山洞窟学会所属 東京都在住)

はじめに

静岡県三島市所有地にある「三島風穴」(総延長298.9m + α)の埋め立てが計画されていると聞き、その現況把握のため三島市の許可を得て、NPO 法人火山洞窟学会(立原 弘・勝間田隆吉・川村一之・伊藤 裕・伊東典夫・宮下弘文・木崎裕久・宮崎 哲・星野誠三・松澤 亮・小山啓介)、大島 治(東京大学 火山・岩石学者)、長谷川 謙(三島里山倶楽部)、ほか1名の計14名で2010(平成22)年2月6日に洞窟内部の緊急調査を行なった。その緊急調査の報告をする。

三島風穴の位置

「三島風穴」はJR三島駅北口(東海道新幹線側)より徒歩1分にある道路の交差点「三島駅北口」直下に存在し、近傍には東洋レーヨン(株)、(株)東横イン、三島駅北口、市営三島駅北口駐輪場、三島長陵高校などがあり、都市の中心部にある稀有な洞窟である。



三島風穴の位置図
(ゼンリン「いつもNAVI」に加筆して使用 長谷川謙作成)

三島風穴の発見経緯と所有者

「三島風穴」は1953(昭和28)年に三共製薬(株)の井戸工事中、洞窟側壁を破ったことで発見された玄武岩質溶岩洞窟で、三共製薬(株)の敷地内に洞口が存在していたため、私有地として一般市民の立入りは出来なかった。

三共製薬(株)の移転により三島市に開放されたものであり、私有地にあった関係で、天然記念物や史跡には登録されていない。

三島風穴の特徴

「三島風穴」は、約1万4000年前(年代は三島アムニティー大百科より引用)に富士山の噴火により流れ出した三島溶岩流内(長さ30km以上と推測)の最も下流末端部の位置(海拔43m)に形成された溶岩洞窟で、発見された富士山の溶岩洞窟では最古のものであると見られている。三島溶岩流末端付近に存在するため構造も複雑で、洞内の溶岩は酸化され赤褐色をしている。

内部は広いホール状に洞窟を形成し、壁の一部に珪酸鍾乳石が、床面には縄状溶岩床が見られ、天井には溶岩鍾乳石が形成されている。このように内部には溶岩の流動・二次生成物などの、溶岩流出当時の地表では観察できない諸特徴がそのまま保存されており、また真洞窟性動物が多いために、学術上貴重な洞窟であると考えられている。

現況調査結果

洞口である井戸は嚴重に鍵のついたマンホール状の鉄製蓋で守られ、地表から8m下の横穴洞口までは立派な鉄製梯子が設置されている。洞窟内の一部の天井は地表からの工事等による崩壊が見られ、地表から砂利等が流入している。

南側と北東、南側と北西、南側と通称：早稲田支洞をつなぐ洞窟の中央付近(道路下)の崩落部分以外は天井崩壊がほとんど無く、貴重な生成物(珪酸鍾乳石や明確な形状を示すAタイプの溶岩棚や貴重な鉱物など)がそのまま残され、(株)東横イン方向の洞内には、深さ20cm以上のコウモリグアノの堆積物が観察された。土砂の流入と崩壊部分をのぞいて保存状態はおおむね良好である。

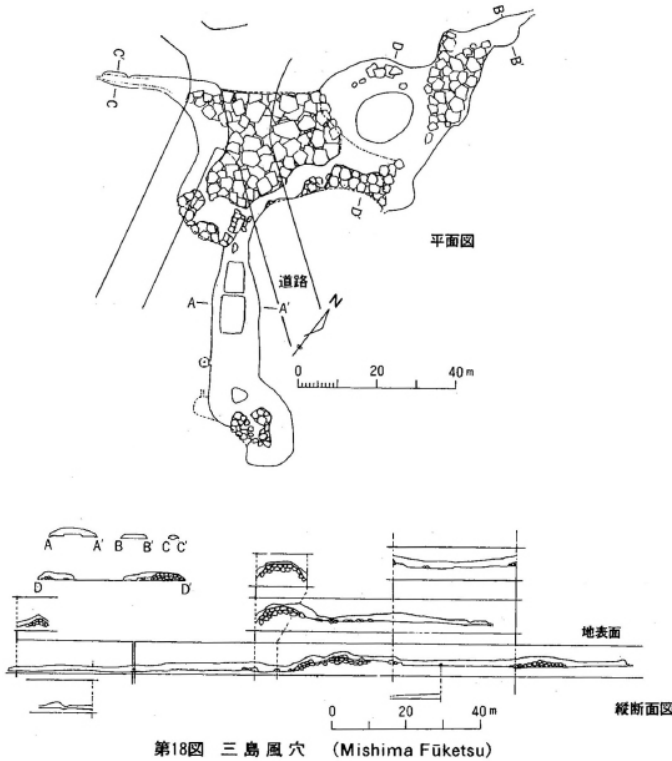
交差点真下に当たり埋め立て予定区となっている北西部の洞内には、コウモリグアノの他、珪酸華(珪酸鍾乳石)や二次生成物(洞穴鉱物)が観察され何らかの形で保護してもらいたい空間である。

静岡県他市の保存対策の例

静岡県富士宮市では、溶岩洞窟の上を車が頻繁に通る道路が敷設されたり、建物が建設されたりしているが、少しでも対応可能な保護対策を実施するとの方向で、天然記念物や史跡に登録されていないにもかかわらず、補強工事を行ない溶岩洞窟内全ての保存維持管理に力を尽くしている。

富士市でも同様、道路下の洞窟が保護されている。

16、17ページはケイピングジャーナルをご購入いただき、ご覧ください。



第18図 三島風穴 (Mishima Fūketsu)

三島風穴平面図・縦断面図 (日本火山洞窟学協会 1986年測量)



三島風穴平面図 (早稲田大学探検部 1971年測量 友野博製図)
左下の通称：早稲田支洞が発見された

おわりに

三島市は、洞窟にセメントを注入して地下空間(三島風穴)の半分程を補強する計画を立案していた。

それに対し火山洞窟学会は、駐輪場側の溶岩柱ホールや天然記念物指定・世界遺産推挙に値する無二の姿を見せている通称：早稲田支洞等は、貴重な学問的資料・遺産として後世に悔いを残さないように保存方法や工法および材料の選択の慎重な検討を希望する旨、三島市へ内容証明郵便で計画に対する質問及び要望を3月・4月と送った。

しかしながら、三島市は2004(平成16)年度に行われた三島風穴検討委員会の報告・提案に沿って、計画通り2010(平成22)年9月までの工期予定で5月14日よりセメント注入工事を開始した。

火山洞窟学会は、2010(平成22)年1月4日に三島市民の長谷川謙様からメールでの情報提供がなかったら、2月6日に入洞することなく知らぬうちに埋められるところであった。

三島市は半分程を埋立て工事に入る前に、市民に見せたりプロカメラマンによる映像保存したり貴重な資料は博物館などで展示保存してほしいと思った。

追記

通称：早稲田支洞を発見した1971(昭和46)年調査、それ以前の1959(昭和34)年に調査された早稲田大学探検部員の方を探しています。ご存知の方は火山洞窟学会まで連絡をお願いします。



写真(右)：2010年3月15日付毎日新聞
写真(左)：2010年4月2日付静岡新聞
記事内容はスプレオニュースP4～5に掲載



調査員(木崎裕久撮影)